（海上自衛隊幹部学校戦略研究会 コラム 218 2022/03/10）

［国際法から見たロシアによるウクライナ侵攻 ③］

トルコがダーダネルス・ボスポラス海峡における軍艦の通航を制限

2022 年 2 月 24 日、ウクライナのゼレンスキー大統領は、黒海へ通じる海峡におけるロシア船舶の通航停止を公式にトルコに要請した[1]。2 月 28 日、トルコのチャブシオール外務大臣は、ダーダネルス・ボスポラス海峡における軍艦の通航を認めないと警告した[2]。

地中海から黒海へと航行するためには、ダーダネルス海峡、マルマラ海、ボスポラス海峡を通航する必要があり、本コラムでは、当該海域における通航規則について述べる。



出所：ja.maps-Istanbul.com



出所：color-sense.com

国連海洋法条約第 35 条（c）では、国際航行に使用されている海峡について、「長い間存在し現に効力を有している」国際条約が「その海峡の通航を全面的又は部分的に規制している」場合、当該国際条約の制度が適用されることを認めている。ダーダネルス・ボスポラス海峡は、エーゲ海と黒海を結ぶ水路であり、この規定に該当する。同海峡は、トルコとロシアの地勢的関係から「モントルー条約（1936）」という特別な条約によって規律されてきた[3]。

モントルー条約は、主に商船の航行（条約第 1 部）、並びに海峡を通航する軍艦の制限（条約第 2 部）について規定し、特に軍艦に関しては黒海沿岸国、非黒海沿岸国で区分し、かつその排水量等に応じて制限を設けている。平時においては、非黒海沿岸国が 1 国のみで黒海内に保有できる最高総トン数は 30,000 トンであり、非黒海沿岸諸国の総計保有総トン数は 45,000 トン以下でなければならない（第 18 条）。また、非黒海沿岸国については、排水量が 15,000 トンを超える軍艦は通峡が禁止されるが（第 14 条）、黒海沿岸国については、

条件はあるものの排水量 15,000 トンを超える軍艦の通航が認められている（第 11 条）。

さらに、それぞれの船種において平時（Time of peace）、戦時（Time of war）に分け、義務を課している。軍艦に関しては、戦時でトルコが交戦国でない場合（第 19 条）、戦時でトルコが交戦国である場合（第 20 条）、平時であるがトルコが急迫した戦争の危険にさらされていると考えられる場合（第 21 条）及び平時について規定している。戦時でトルコが交戦国でない場合、原則として交戦国の軍艦は当該海峡の通航は禁止される。戦時でトルコが交戦国である場合ならびに平時であるがトルコが急迫した戦争の危険にさらされていると考えられる場合は、軍艦の通航に関してはトルコの裁量に委ねられる。現在は「戦時でトルコが交戦国でない場合」に該当すると考えられ、「原則として交戦国の軍艦は当該海峡の通航は禁止される」ので、ダーダネルス・ボスポラス海峡における軍艦の通航停止はモントルー条約第 19 条に基づくものといえる。この制限により、以後の黒海におけるロシアの海軍戦力の増強は、制約を受けるものと考えられる[4]。

（海上自衛隊幹部学校　作戦法規研究室　長谷川　和浩）

（本コラムに示された見解は、幹部学校における研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省または海上自衛隊の見解を表すものではありません。）

---

[1] "*Ukraine asks Turkey to shut Black Sea waterways to Russian ships,*" Aljazeera, Feb 24, 2022, https://www.aljazeera.com/news/2022/2/24/ukraine-asked-turkey-to-close-black-sea-waterways-to-russia.

[2] "*How a 1936 treaty could force Turkey to take sides in the Ukraine war,"* CNN, Feb 28, 2022, https://edition.cnn.com/2022/02/28/middleeast/mideast-summary-02-28-2022-intl/index.html.

[3] 杉原高嶺『国際法学講義』有斐閣、2008 年、314 頁。

[4] *The Military Balance 2022*, IISS, Routledge Taylor & Francis Group, 2022, pp. 202-206. ロシア海軍戦力については以下のように記載されている。（一部抜粋）

Northern Fleet,

SUBMARINES 27, **STRATEGIC** 8 **SSBN** (of which 2 in refit) (1 additional in reserve), **TACTICAL** 19: 5 **SSGN**; 9 **SSN**; 5, **SSK, PRINCIPAL SURFACE COMBATANTS** 10: 1 **CV** (in refit); 1 **CGHMN**; 1 **CGHM**; 5 **DDGHM** (1 more in reserve); 2 **FFGHM, PATROL AND COASTAL COMBATANTS** 16: 6, **FSM**; 2 **PCGM**; 8 **PB, MINE WARFARE ・ MINE COUNTERMEASURES** 8: 1 **MHO**; 1 **MSO**; 6 **MSC, AMPHIBIOUS** 8: 6 **LST**; 2 **LCM,**

Baltic Fleet,

SUBMARINES ・ TACTICAL ・ SSK 1, **PRINCIPAL SURFACE COMBATANTS** 6: 1, **DDGHM**; 5 **FFGHM** (1 more non-operational, in longterm refit), Russia and Eurasia 203, **PATROL AND COASTAL COMBATANTS** 34: 3, **FSGM**; 2 **FSG**; 6 **FSM**; 4 **PCGM**; 7 **PCFG**; 11 **PBF**; 1 **PB, MINE WARFARE ・ MINE COUNTERMEASURES** 11: 1 **MCC**; 4 **MSC**; 6 **MHI, AMPHIBIOUS** 13: 4 **LST**; 7 **LCM**; 2 **LCAC,**

Black Sea Fleet,

SUBMARINES ・ TACTICAL 6 **SSK, PRINCIPAL SURFACE COMBATANTS** 6: 1 **CGHM**; 3 **FFGHM**: 2 **FFGM, PATROL AND COASTAL COMBATANTS** 36: 8, **FSGM**; 6 **FSM**; 3 **PSOH**; 5 **PCFG**; 6 **PB**: 8 **PBF, MINE WARFARE ・ MINE COUNTERMEASURES,** 10: 3 **MCC**; 1 **MHO**; 5 **MSO**; 1 **MSC, AMPHIBIOUS** 10: 7 **LST**; 3 **LCM,**

Pacific Fleet,

SUBMARINES 15, **STRATEGIC** 3 **SSBN TACTICAL** 12: 3 **SSGN** (2 more non-operational in l ong-term refit); 1 **SSN** (3 more non-operational in long-term refit; 8 **SSK, PRINCIPAL SURFACE COMBATANTS** 10: 1 **CGHM**; 5 **DDGHM**; 4 **FFGHM, PATROL AND COASTAL COMBATANTS** 28: 8, **FSM**; 4 **PCGM**; 10 **PCFG**; 6 **PB, MINE WARFARE** 10: 1 **MCC**; 2 **MSO**; 7 **MSC, AMPHIBIOUS** 9: 4 **LST**; 5 **LCM.**